

保護者の皆さまへ

しない

させない

ゆるさない



いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて

～かけがえのない子供のために～

いじめは、決して許されるものではありません。しかし、「いじめはどこでも、誰にでも起こり得る」問題です。誰もが「いじめる側、いじめられる側になる可能性」があります。ふだんから子供の少しの変化にも心をくばるようにしたいものです。



サインを見逃さない！

～いじめられている子のサインをキャッチ～



日常生活は

- ☐ 朝になると体調の不良を訴え、登校をしぶる。
- ☐ 衣服の汚れや傷みが目立ってくる。
- ☐ 身体にあざやひっかき傷がある。
- ☐ 食欲がなく、元気がない。
- ☐ 学習意欲をなくし、何事に対しても無気力になる。
- ☐ 学校のことを話したがらなくなる。
- ☐ 部屋によく閉じこもる。
- ☐ 沈みがちで表情がさえない。

子供の持ち物は

- ☐ 持ち物がひんぱんになくなる。
- ☐ 持ち物が汚れたり、こわれたりする。
- ☐ 家からお金や物品を持ち出す。

～いじめる側になっているかも～

- ☐ ふだん持っていないものを持っている。
- ☐ お金の使い方が荒くなる。
- ☐ 親の言うことを聞かなくなり、反抗的な態度をとるようになる。
- ☐ 親が部屋に入るのを極端に嫌がるようになる。

友人関係は

- ☐ 友だち関係が変わり、友だちからの呼び出しが多くなる。
- ☐ 携帯電話やメールのやりとりが多くなる。または避けるようになる。

家庭において



～子供と過ごす時間を～

子供と一緒に過ごす時間が少なくなっていますか？家族で少しずつ調整して、食事の時間を合わせたり、就寝前の時間を利用したりしましょう。

～何でも話せる雰囲気を～

子供は、いじめを受けていることをなかなか言えないものです。弱いとは思われたくない、心配をかけたくないという気持ちがあるからです。

子供と向き合える「時」や「場」を捉え、話しやすい雰囲気をつくりましょう。

「元気がないね、大丈夫？」「心配なことがあれば何でも言ってね」というような言葉かけは、子供にとっては見守られているという安心感になります。

～いじめを防ぐために～

- 子供に他人を思いやる優しい心、社会生活のルールやマナーを守ることの大切さを教えてください。
- 人とのつながり、生命や自然の大切さを家族で考える機会を持ってください。
- 規則正しい生活習慣を身に付けさせるとともに、外で体を動かして遊ぶ機会を増やしてください。

～いじめを受けていることがわかったら～

じっくり話を聴き、本人の苦しみや恐怖心をわかろうとすることが大切です。わかってもらおうと子供は安心します。

「そんなことぐらい」「がんばれ」「しっかりしろ」など安易な励ましは、勇気を出して相談した子供の心に届かず、むしろ逆効果になるとことがあります。

子供の気持ちに寄り添い、学校と相談しながら解決に向けての対応を考えていくことが大切です。謝罪や和解を急がず、子供の気持ちに配慮した対応が必要です。

和歌山市教育委員会

いじめ・不登校問題に関する検討委員会